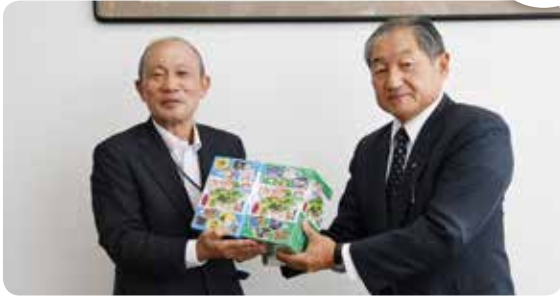


日本の昔話を子どもたちへ

田川ロータリークラブがDVDを寄贈

10/21



田川ロータリークラブが、市内の全小学校に「ふるさと再生日本昔話」のDVDを寄贈しました。このDVDには「一寸法師」などなじみ深い昔話を多数収録。コロナ禍の中で生活している子どもたちが、日本の文化に触れて笑顔になってほしいとの願いを込め、芦馬謙二会長(右)が吉柳啓二教育長に手渡しました。

伝統を守り、安全を守る

大浦交通安全少年隊

10/22



大浦交通安全少年隊として活動する大浦小学校の児童6人が市役所を訪問。学童交通安全運動実践優秀校表彰の最優秀賞を受賞したことを二場公人市長に報告しました。同校では、児童が自ら登校時の安全を守る取り組みを長く続けており、今回で42回目・41年連続の受賞となりました。

安全安心なまちづくり関係功労者内閣総理大臣表彰

田川警察署少年補導員連絡会

11/6



田川警察署少年補導員連絡会が取り組んできた少年の非行防止や健全育成の活動が評価され、10月16日に首相官邸で開かれた「安全安心なまちづくり関係功労者内閣総理大臣表彰式」で団体表彰を受けました。入船清会長は「今後一層、少年の非行防止と健全育成に取り組みたい」と抱負を語りました。

命を守る防災コラム vol.4 わが家の避難ルールで逃げ遅れゼロに

過去の災害では「自分は大丈夫」「これくらいなら避難しなくてもいい」と、安易に考えて逃げ遅れた事例がいくつも報告されています。避難とは、危険な場所からいち早く離れるということ。では、なぜ人は危険な状況でも避難しないのでしょうか。

まず「これまで何とか生きてきたから、これからも何とかかなる」という思い込みで大きな落とし穴があります。これまで生きてきたことと、次の瞬間も生きていくことには、残念ながら何の因果関係もありません。また「いざとなったら消防や警察が助けに来てくれる」という考えにも注意が必要です。大規模災害で交通状況が悪化すると、救助隊の到着は大幅に遅れます。いざというときの公助への

期待は、ときに裏切られる可能性もあるのです。災害時には「今回も大丈夫だろう」という気持ちを「今回は大丈夫だろうか」に切り替えてください。

あなたとあなたの大切な家族の命を守るために、まずは事前のルール作りに取り組みましょう。「洪水警報が出たら」「土砂災害警戒情報が出たら」など、さまざまな状況を想定し、避難を始めるタイミングを家族で話し合い、あらかじめ決めておくことが大切です。「田川市災害対応ガイドブック」の裏表紙には「わが家の避難ルール」を書き込むことができます。ぜひ活用してください。



問い合わせ 安全安心まちづくり課防災安全対策室 ☎85-7114